

令和元年度 会派調査研究報告書

(視察先 1 箇所につき 1 枚)

会 派 名	石合祐太
事 業 名	先進地視察「亀岡市立地適正化計画について」
事 業 区 分	① 研究研修 ② 調 査

1 上田市での課題と研修・調査の目的

近年、我が国における人口減少と高齢化を背景に、高齢者や子育て世代にとって、安心できる健康で快適な生活環境を実現することや、財政面及び経済面において持続可能な自治体経営を可能とすることが課題となっていることから上田市は、趨勢として将来訪れる人口減少社会に対して、持続可能な都市構造の構築を進めるための基本方針等を定めた「上田市立地適正化計画」を平成 31 年 3 月に策定した。

計画についてともに平成 31 年 3 月策定と同時期策定であること、上田市は千曲川・亀岡市は桂川を境に都市整備が進んでいることなど共通点が見られることから、今後の上田市の都市建設への提言に活かす目的で調査を行った。

2 実施概要

実施日時	視察先	京都府亀岡市
令和 元年 7 月 18 日(木) 午前 10 時 15 分～ 11 時 45 分	担当部局	亀岡市まちづくり推進部都市計画課

報告内容（感想、市政に活かせること）

1. 視察先の概要

人口 89,783 人 面積 224.80 km² 発足 1955 年 1 月 1 日

2. 視察先の特徴

京都市の西に位置し、古来より都と山陰を結ぶ交通の要衝として栄えた。現在は電車で京都駅まで約 20 分、大阪市へは約 60 分と利便性も高く、住宅都市として府内 3 位の人口を有する。自然が多く残り、保津川下りや嵯峨野トロッコ列車などの観光資源を持ち、また、府内最大の穀倉地帯でもあり、京野菜や亀岡牛などの特産品がある。

3. 視察事項について

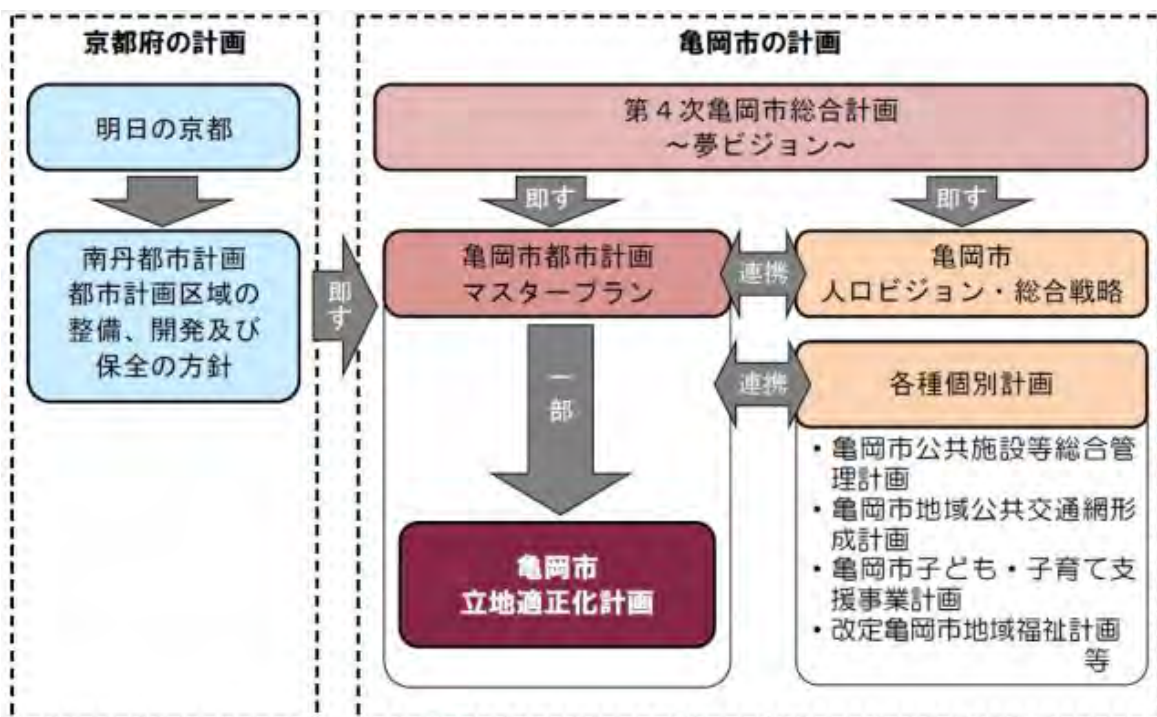
(1) 計画策定の背景について

亀岡市では、第 4 次亀岡市総合計画の目指す都市像を実現するための重点施策である「定住促進・少子化対策」「安全・安心の推進」「にぎわいの創出」の地域課題への対応、また亀岡市都市計画マスタープランの方針である「集約拠点ネットワーク型都市」の形成を実現・実行するため、居住や都市機能の誘導に係る具体的な方策を検討し、公共交通ネットワークとの連携により、持続的に発展する集約型の都市構造への転換を掲げ、立地適正化計画を作成したものである。



イメージ図（国土交通省立地適正化計画概要パンフレットより）

(2) 位置づけと役割について



図のように上位計画のもと、関連する個別計画との連携を図る中で居住・都市機能の2つの誘導施策を打ち出すこととしている。また、土地利用誘導に併せ、交通施策や公共施設、医療・福祉関係との連携も必須となっている。

(3) 拠点区域とそれ以外の区域での計画に対する受け止め方の違いについて

都市計画審議会でも不安視する声はあった。総合計画との整合を図り、市街化区域（居住誘導区域・都市機能誘導区域外）にあってもメリハリのある土地利用により、一定の人口密度を維持することで、人口減少社会にあっても継続する都市機能の維持・向上をめざしている。

(4) 将来見通しにおける亀岡市の課題

①人口減少に伴い、地域コミュニティの維持や地域の活性化に大きな影響

②高齢者が関わる事故の防止と公共交通ネットワークの充実による誰もが安心して暮らせる環境の整備

③既成市街地の土地利用密度低下に伴うまちの空洞化

④厳しい財政状況が見込まれるため効率的な財政運営

(5) 居住誘導のための施策と居住誘導区域外における対応

(3) 居住誘導のための施策

◆空き家対策の推進	◆道路ネットワークの整備
◆定住促進対策の充実	◆公共交通ネットワークの充実
◆子育て支援の充実	◆ゆとりある良好な住環境の整備
◆公営住宅等の住環境の向上	◆居住誘導区域外での届出制度の活用

すべての人口や住宅を居住誘導区域に集約させるものではないことから、居住誘導区域外においても良好な環境や生活の利便性が損なわれるものではないとしている。

(6) 誘導施設の立地誘導のための施策

(4) 誘導施設の立地誘導のための施策

◆国の支援制度の活用 (都市再構築戦略事業の活用等)	◆道路ネットワークの整備
◆特定用途誘導地区の指定	◆子育て支援の充実
◆既成市街地活性化による賑わい創出	◆障害者福祉の充実
◆公共施設等総合管理計画等の推進 と公的不動産の有効活用	◆高齢者福祉の充実
◆新資料館構想の推進	◆都市機能誘導区域外での届出 制度の活用
◆交通結節点の機能強化	

誘導施設の中心拠点は亀岡駅、地域拠点は亀岡駅以外の市内各駅、地域（交流）拠点は京都先端科学大学を位置付けている。

【まとめ（上田市に活かせること）】

同時期に立地適正化計画を策定した亀岡市の状況を見させていただく中で、上田市としても共通する課題や今後対応を迫られる点を確認した。

居住誘導区域、都市機能誘導区域外の地域居住者に対する環境、利便性を低下させず、自治体の特色を活かした活気あるまちづくりに向けて、この計画をどのように活かしていくかが今後においても大変重要な課題である。

引き続き、亀岡市や他自治体の動向に注視しつつ、上田市における立地適正化計画の効果が発揮されるよう、チェックしていきたい。